

門 13
號 3740



小室の美談

阿波のすみ

よみ巻

若与板

ふみかゝり
くめさだ忠

一

机辺ふ客あり。予が草稿をえり詰りて曰余本傳と聞きたるに
趣向の苦しむ所小至まぶ蝶と出して其場と道る基草
双紙の春の物ゆへ早虫蝶も佳らんが餘り屢出るる
御蝶妖の術といひの君草書の申所見返し何小因る
這術の起り所と見え出たまふと僕竊に苦嘆して知るや
片の晦日ゆへ掛とむもの帳と見え進ば忽然とくも身を
留守とせしむの妙術あり帳と蝶との音相あはし
然るに冊子ふりては蝶も書房が負債をのぐも
たぬか

壬申春稿成



為永春水記

寺七四十二



○妙義山の
賊婦稻妻

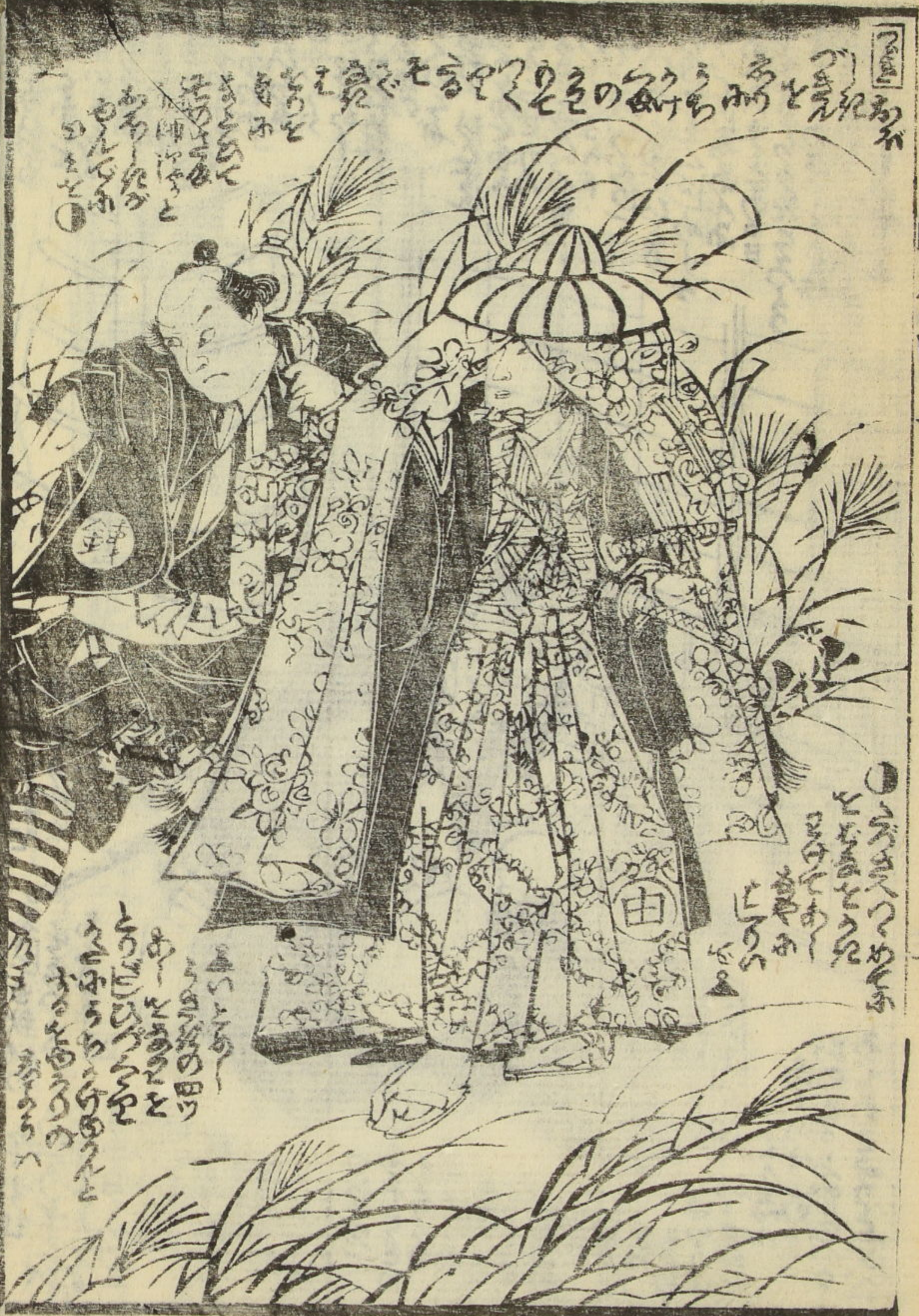


○榛名山の賊長
天狗嵐の
魔九郎

日イロニ

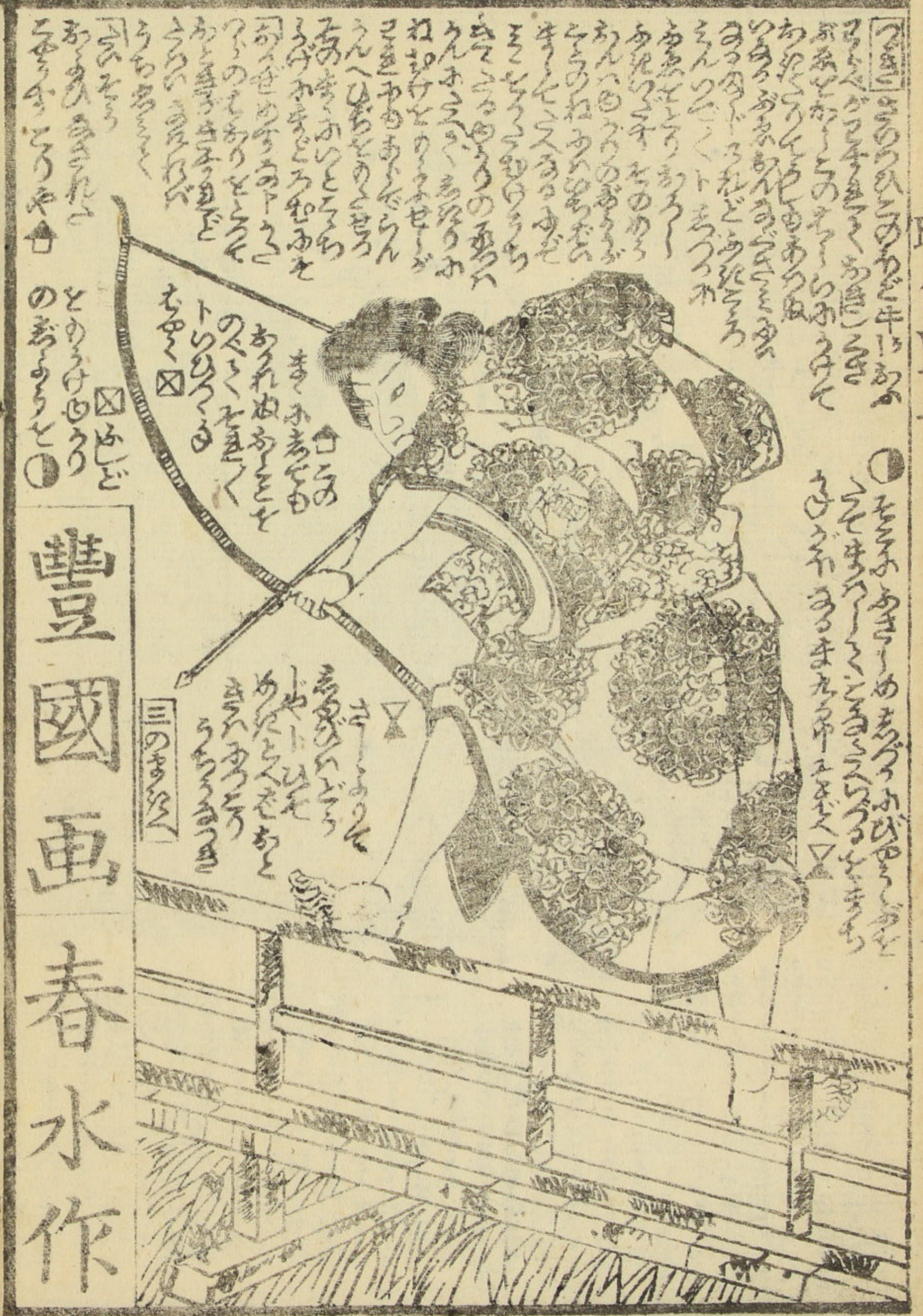


Handwritten Japanese text in vertical columns, including the number '29' in a box.



Handwritten Japanese text at the top of the right page, including the characters 'あはれ' and 'あはれ'.

Handwritten Japanese text in vertical columns on the right page, including the character '由'.



豊國画春水作

風流画半切

越前奉書紙。縮じりし半切
伊豫奉書紙。かみしりし半切

王齋百圖全

大津四ツ切
百枚様

忠臣義士銘々傳

大津四ツ切
百枚様

和山崎の竹筒

和山崎の竹筒
竹筒の意

色

色
色紙の意

同海包

同海包
海包の意

常盤新板

常盤新板
常盤新板の意

東中

東中
東中の意

若林堂板

